

授業概要

英語科教育法Ⅱでの既習事項を土台にして、指導案を作成し、模擬授業を行いながら理論と実践の接点を見出していくことが中心となる。学習指導要領の「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の3つの資質・能力(以下、「3つの資質・能力」という)とともに、領域別の学習到達目標の設定、年間指導計画、単元計画、各授業時間の指導計画について理解する。

授業計画

第 1 回	英語教育と英語教育学について
第 2 回	英語の国際化と日本の英語教育（異文化理解）
第 3 回	学習指導要領について（中学校）
第 4 回	学習指導要領について（高等学校）
第 5 回	学習者への動機付けについて（英語学の知見を活かす）
第 6 回	教室英語の実践法とその工夫
第 7 回	アクション・リサーチ（英語コミュニケーション）
第 8 回	英語教授法（口頭教授法）
第 9 回	英語教授法（認知主義教授法）
第 10 回	英語教授法（コミュニケーション・ランゲージ・ティーチング）
第 11 回	第二言語習得と英語教育（第二言語習得と言語観）
第 12 回	第二言語習得と英語教育（誤り分析）
第 13 回	第二言語習得と英語教育（中間言語）（英語文学の活用）
第 14 回	コミュニケーション能力の育成（ストラテジー）
第 15 回	コミュニケーション能力の育成（特徴と分析）
第 16 回	定期試験

到達目標

中高英語教員免許取得のために必要な実力の養成を目指して以下の項目を到達することとなる。

- 1) 文法に関する指導について理解し、授業指導に生かすことができる。
- 2) 異文化理解に関する指導について理解し、授業指導に生かすことができる。
- 3) 教材及び ICT の活用について理解し、授業指導に生かすことができる。

☆文部科学省によるコアカリキュラム指針に従い、英語学、英語文学、英語コミュニケーション、異文化理解関連項目を取り入れた授業です。

履修上の注意

授業は原則として英語のみで行いたいと思います。NHK のラジオ講座を教材の1つとして使用します（選定番組は受講者と相談）ので、これも活用して、毎日英語に触れる心構えを持つことが最低条件です。辞書は必携です。英語の勉強も含めれば、毎日学習するよう努力して下さい。これを楽しめることが必須条件です。教職を志すからには当然ですが、遅刻は厳禁。

予習復習

毎時間 reading assignment を出しますので、必ず予習のうえ、授業に臨んで下さい。予習を前提として授業を行います。授業時には復習のために、self-research を課し、評価の一部（下欄参照）に組み入れます。

評価方法

mid- & final test (50%)、presentation (20%)、quiz (10%)、report (10%)、及び self-research assignment を中心に予復習の有無 (10%) を勘案して総合的に評価。

テキスト

- ・教科書名：『改訂版 新学習指導要領にもとづく英語科教育法』
- ・著者名：望月 昭彦
- ・出版社名：大修館書店